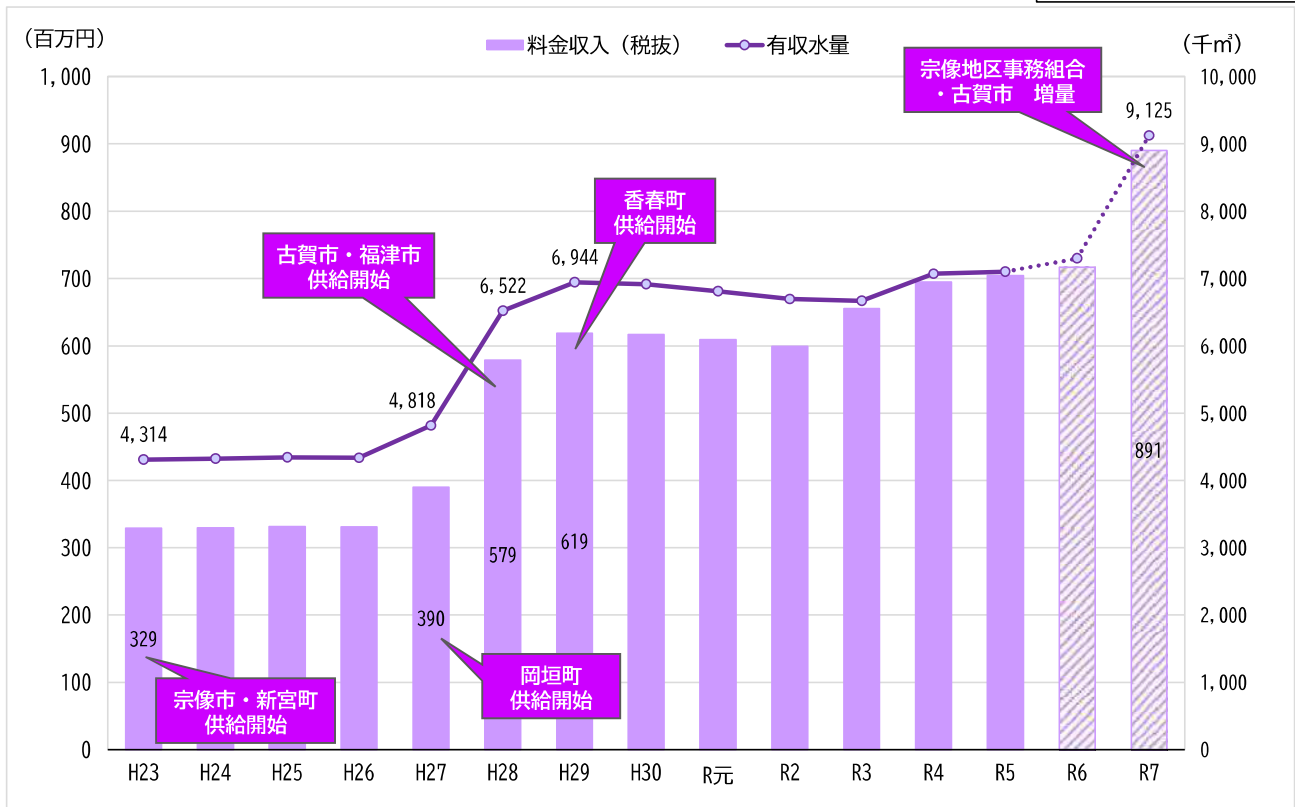
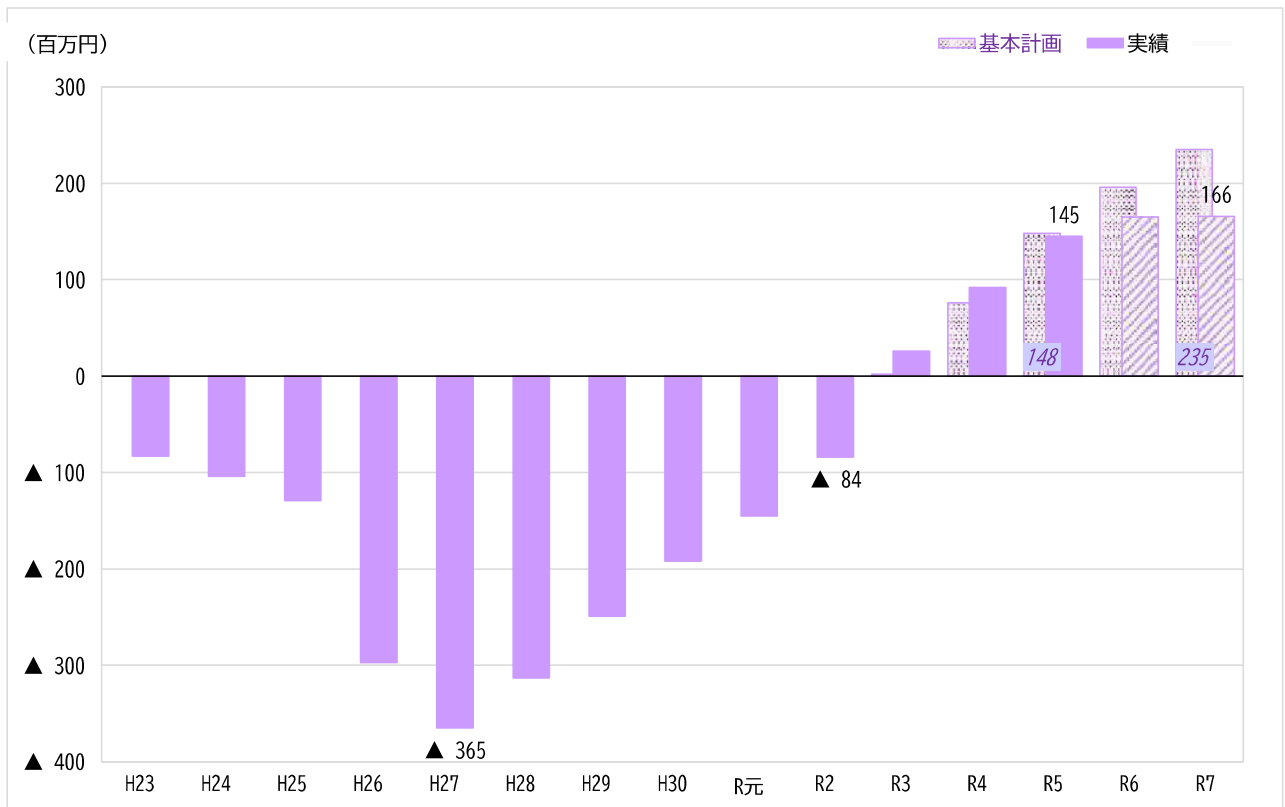




用水供給に係る料金収入については、給水対象の拡大にあわせて増加。

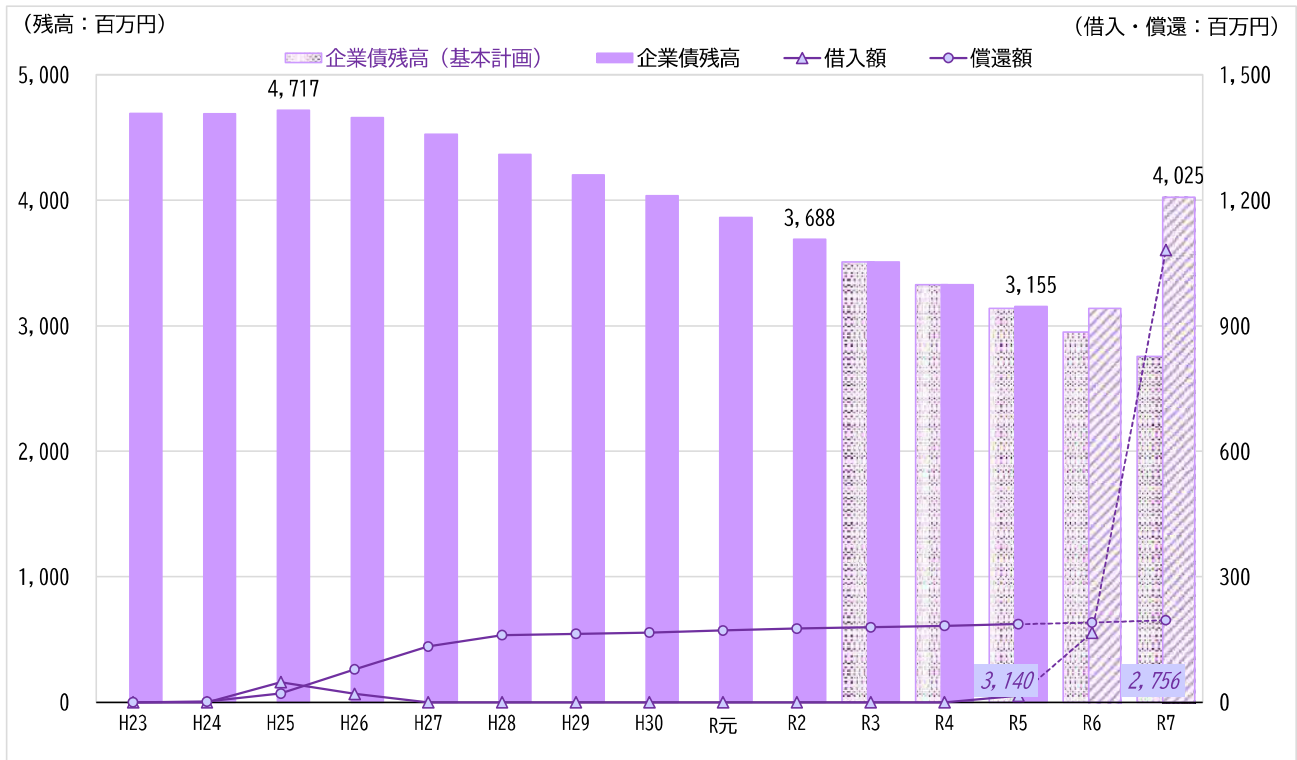
71



累積資金剰余は、浄化費用の増加に伴い計画値を下回るものの、年々増加の傾向。

72

7 経営状況 (2)水道用水供給事業 ③企業債残高の推移

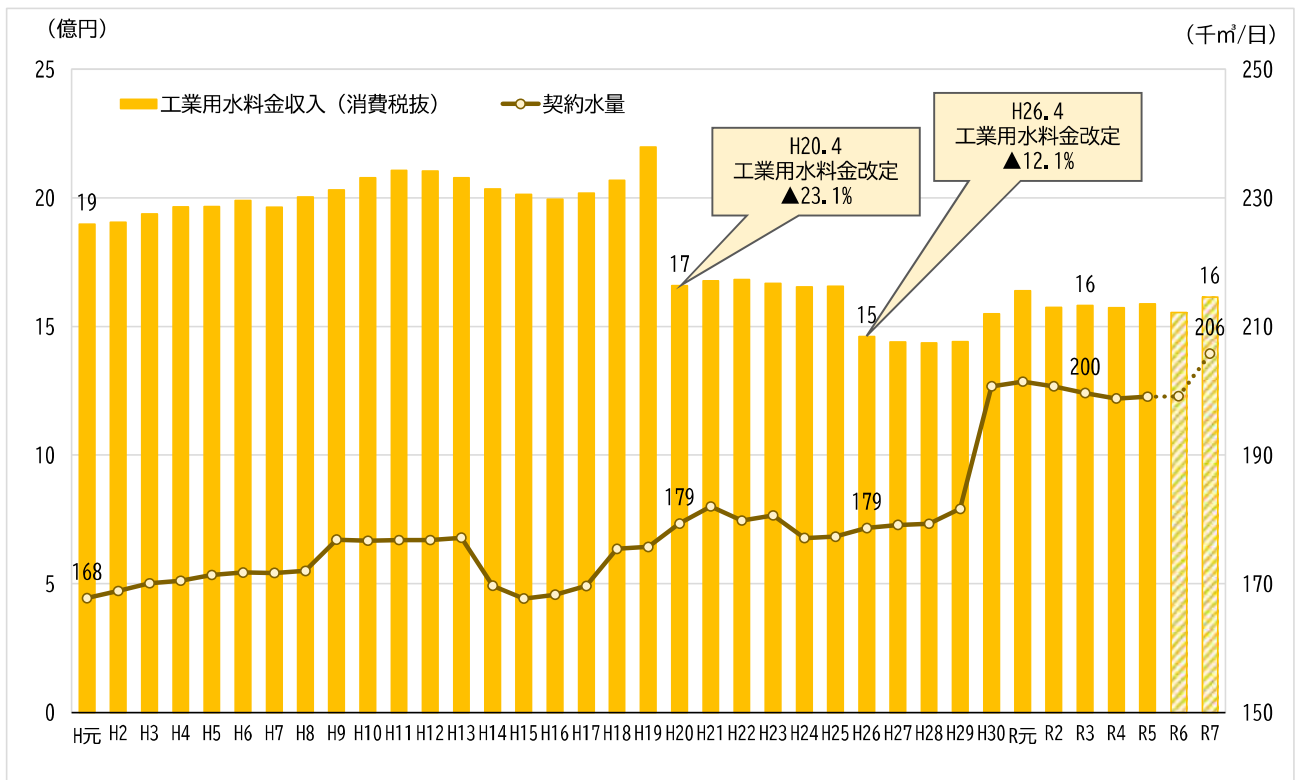


企業債残高は、給水対象の拡大に向けた施設の整備に伴い増加。

※R6年度以降については、R5年度からR6年度への繰越額8百万円を含む。

73

7 経営状況 (3)工業用水道事業 ①料金収入の推移

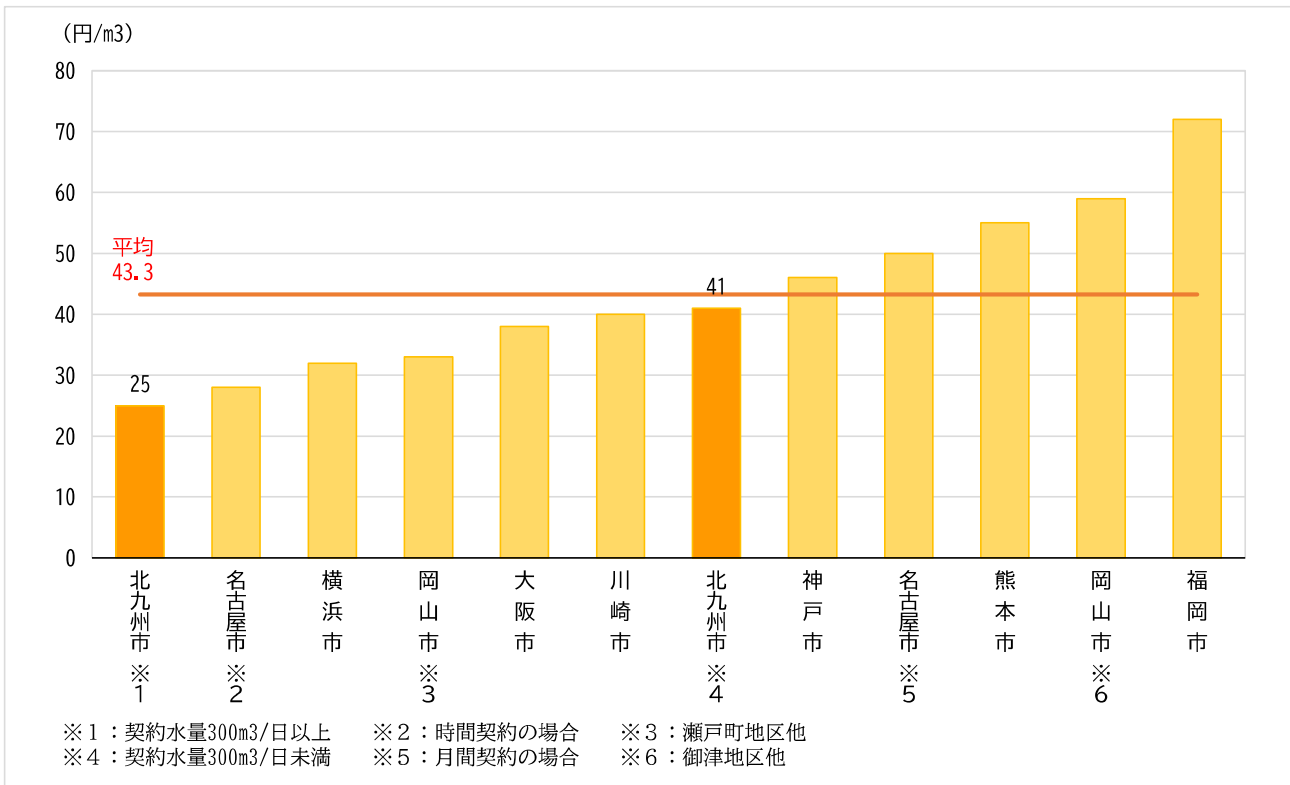


工業用水料金収入についてはH20年度以降、年間16億円前後で推移。
(契約水量や支出見通し等を踏まえ、H20、H26に料金改定を実施。)

74

7 経営状況 (3)工業用水道事業 ②料金比較（大都市）

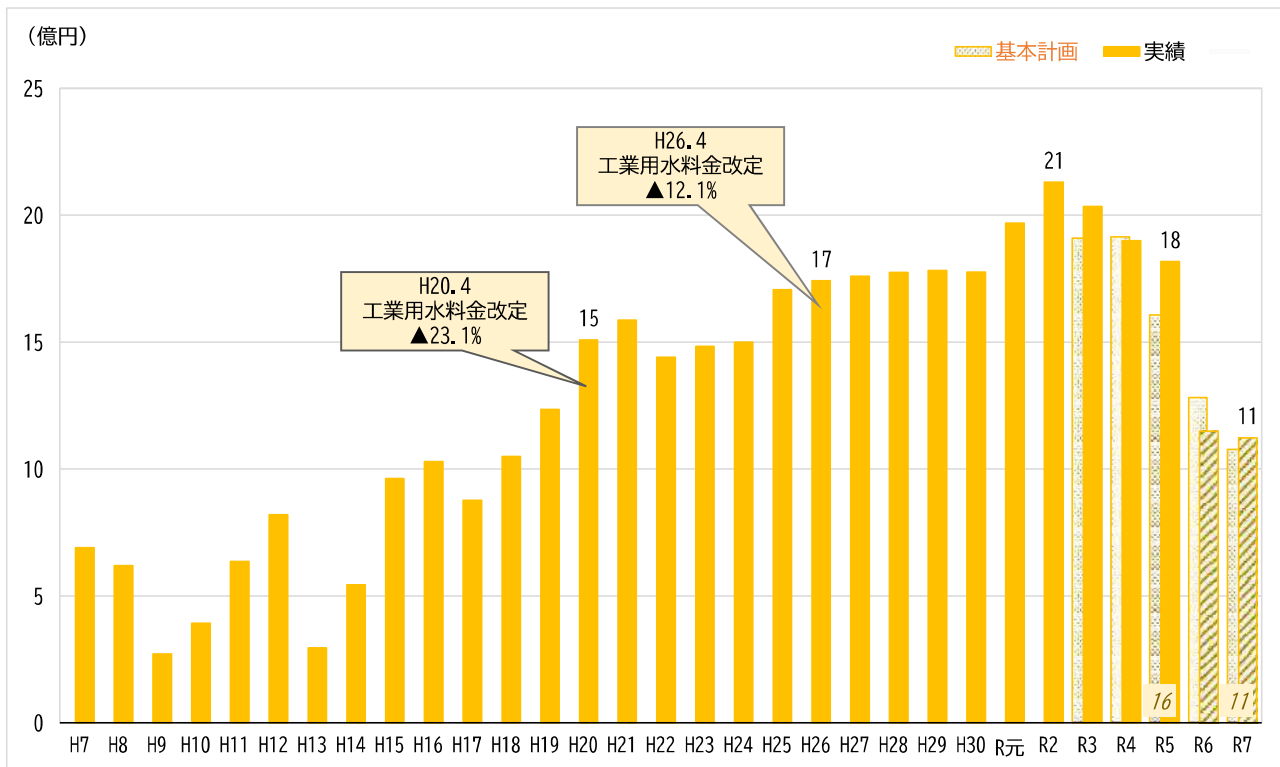
（基本料金、消費税込）



北九州市は9都市中、最も低い。（300m³/日 以上の場合。）

75

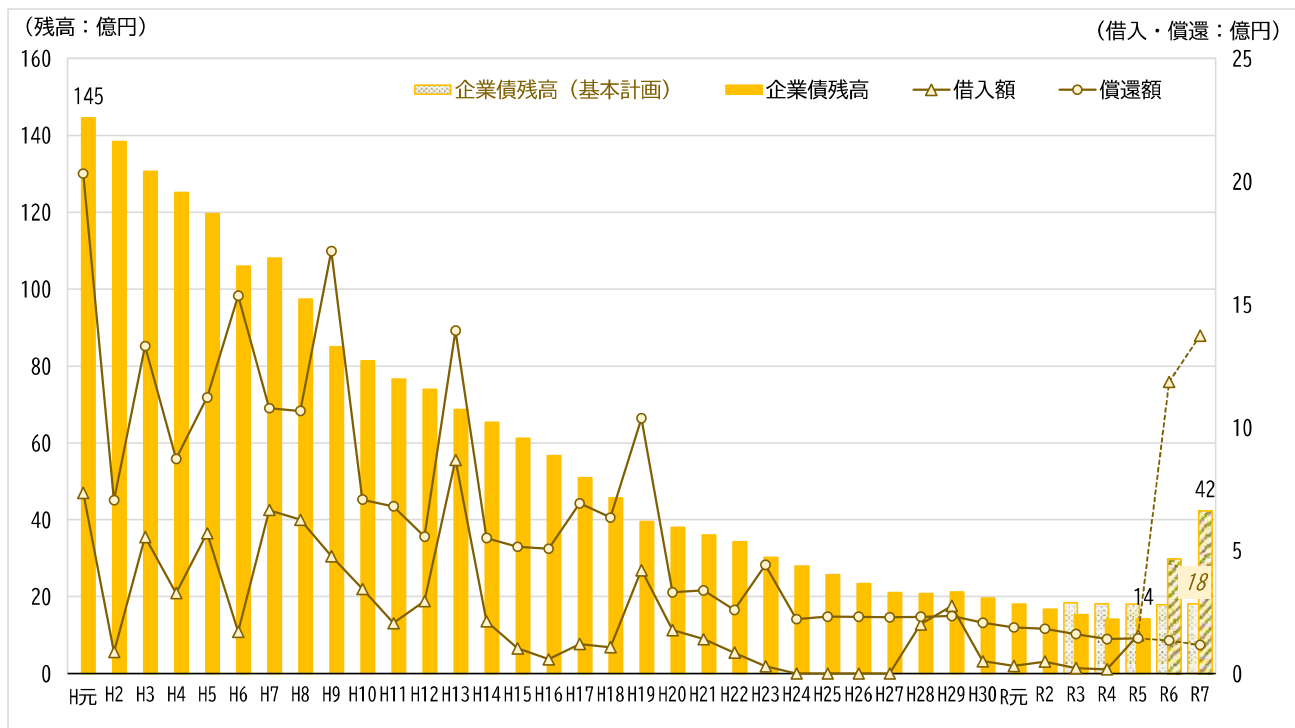
7 経営状況 (3)工業用水道事業 ③累積資金剰余の推移



累積資金剰余は、長期収支見通しを踏まえた料金改定の実施等により、H20以降はほぼ同額で推移。

現中期経営計画期間中は、おおむね計画通りに推移。

76



企業債残高はH元年度以降減少傾向で推移。

R6年度予算以降は、需要増加に対応するための施設整備の財源とするため増加。

※R6年度以降については、R5年度からR6年度への繰越額5億円を含む。